

加齢による物忘れ	認知症による物忘れ
体験の一部を忘れる	体験の全体を忘れる
ヒントで思い出せる	ヒントで思い出せない(覚えてない)
物忘れを自覚	自覚なし
探し物を努力して見つけようとする	探し物は誰かが盗ったという
作話、取り繕いはみられない	作話、取り繕いがみられる
日常生活に支障ない	日常生活に支障をきたす
進行しない	進行する

記憶の流れ

- 一部を忘れる
- 記憶の帯は切れてない

記憶の流れ

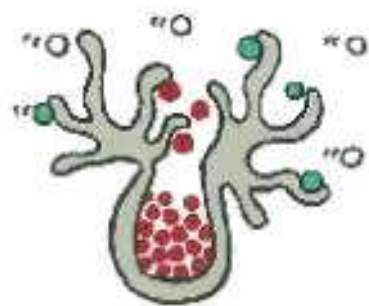
- 全体を忘れる
- 記憶が抜け落ちる

- 朝ごはん何食べたっけ？
- 朝ごはん食べていない
- 作話＝途切れた記憶の帯をつなぎ合わせるから

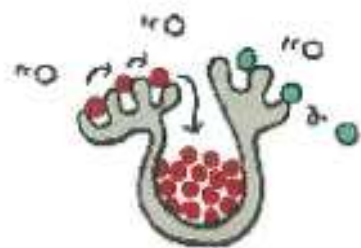
2) 症状解説-4 海馬の働きについて

＜記憶過程＞イソギンチャク触手（海馬）が行うこと

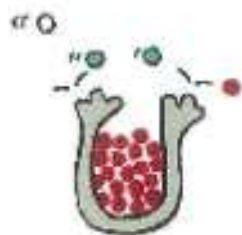
- ① 記銘（覚える）：玉（情報）をツボに入れる
- ② 保持（忘れず）：ツボが玉（情報）を保持する
- ③ 想起（思い出す）：ツボから玉を出す



若いとき



正常な老化
(覚えるのに手間がかかる)



認知症
(覚えられない)



進行すると
(覚えていたことを忘れる)

＜老化：触手の働きが鈍い＞
想起③が困難に

- 覚えている①②はOK
- 思い出しに時間

＜認知症：触手が退化＞

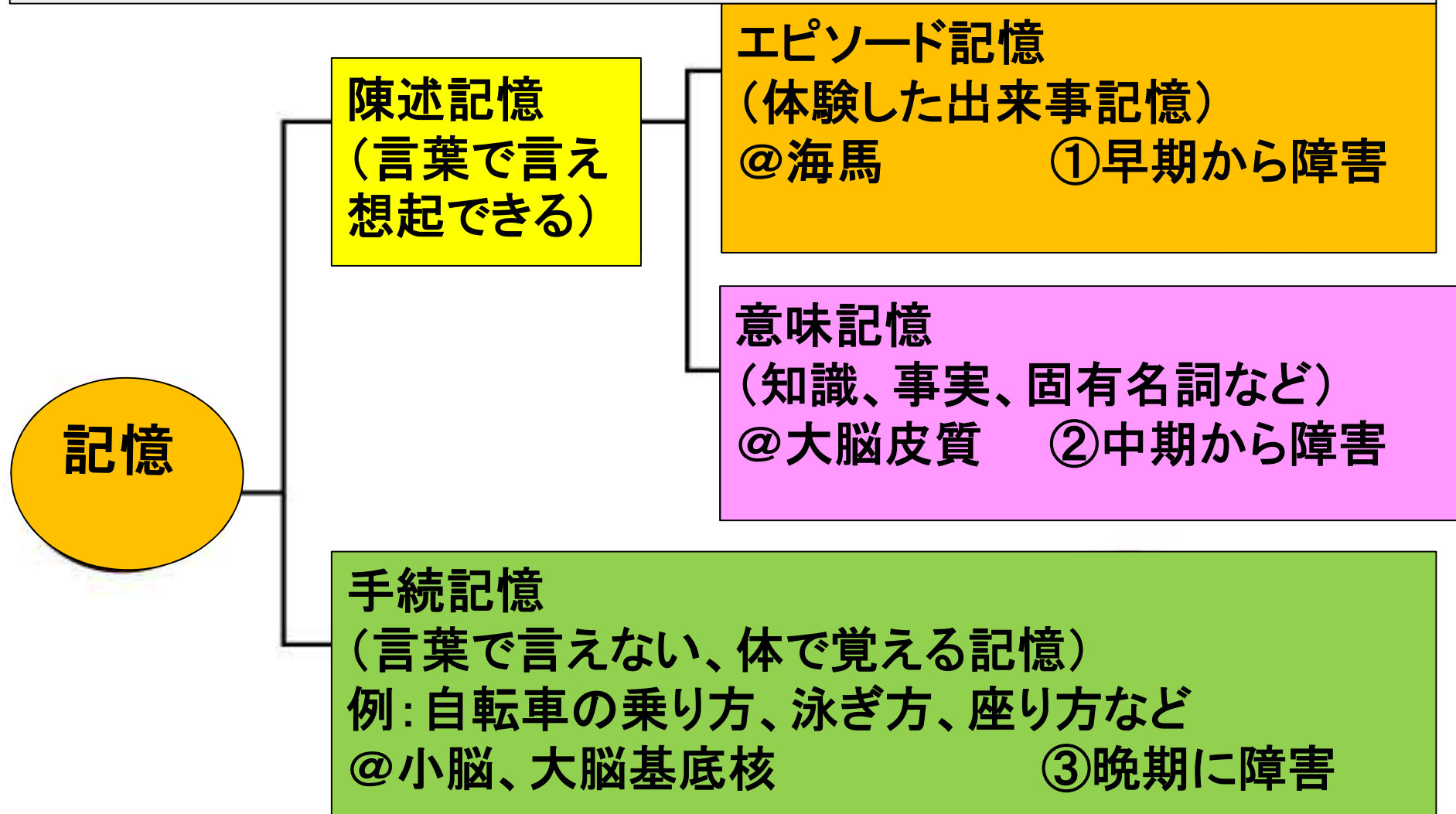
- ①が困難（覚えられない）
- 思い出しようがない

＜末期（ツボが壊れる）＞

- ②がダメになる
- 覚えていた事が消える

2)症状解説-5 内容による記憶の分類

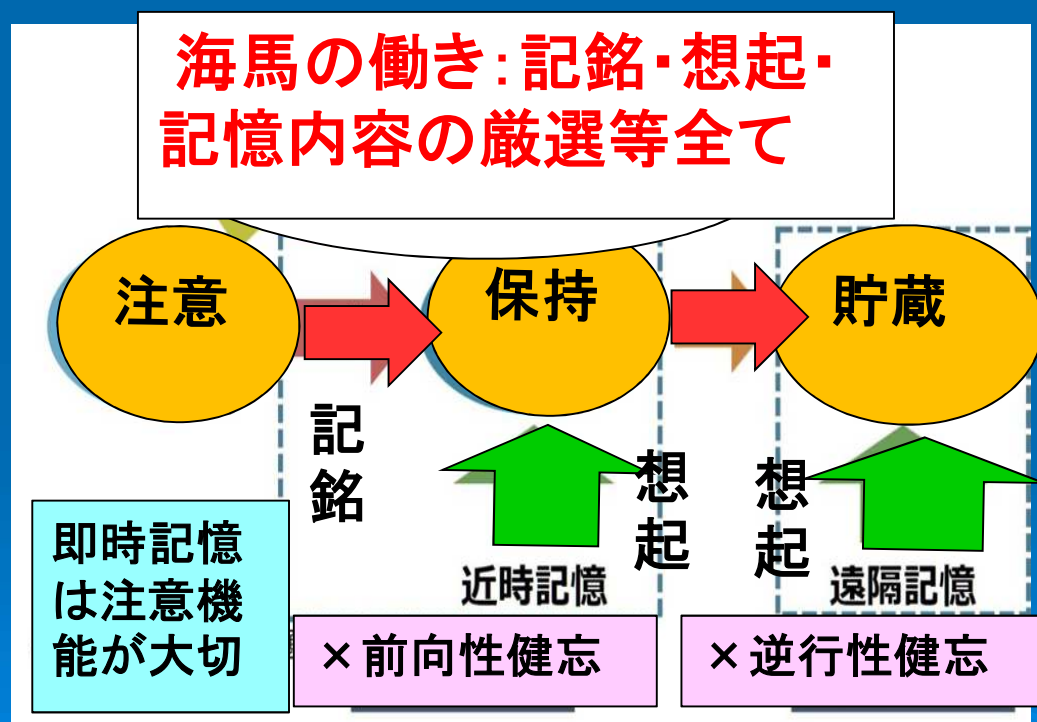
記憶の分類(内容による)



2) 症状解説-6 持続時間による記憶の分類

短期記憶	長期記憶	
即時記憶 (前頭葉)	近時記憶 (海馬で作られ海馬で蓄積)	長期記憶 (大脳皮質で蓄積)
早期は保持	早期から障害	末期には障害

※即時記憶は前頭葉で早期は保持（注意障害で障害）



- 即時記憶 (@前頭葉)
 - ↓ (海馬が選別強化)
 - 近時記憶 → 海馬に貯蔵
 - ↓ (蛋白合成なし)
 - 記憶の固定
 - ↓ (蛋白合成あり)
 - 長期記憶 (@大脳皮質)
 - (忘れにくい記憶)

前向性健忘 = 近時記憶 × ⇒ 今からの事が記銘できない

逆行性健忘 = 遠隔記憶が消える (新しいものから順に)

2)症状解説-7

見当識と見当識障害

見当識＝状況を的確に把握できている状態

【時間失見当識】

- ①現在の年・月・日・時間がわからない
- ②出来事記憶の順番が混乱
- ③季節感の喪失（夏に厚着する）

最も早期に障害



【場所の失見当識】

- ①今いる場所がどこかわからない
- ②自宅を自宅と認識できない（徘徊に）
- ③見慣れた街並が認識できない（街並失認）

中期以降障害



【人の失見当識】

- ①知人の顔が認識できない（孫→子供→配偶者の順）
- ※孫が一番最近に覚えたから

末期には障害



●病識欠如＝自己に対する見当識障害（病態失認）

2)症状解説-8 実行機能について

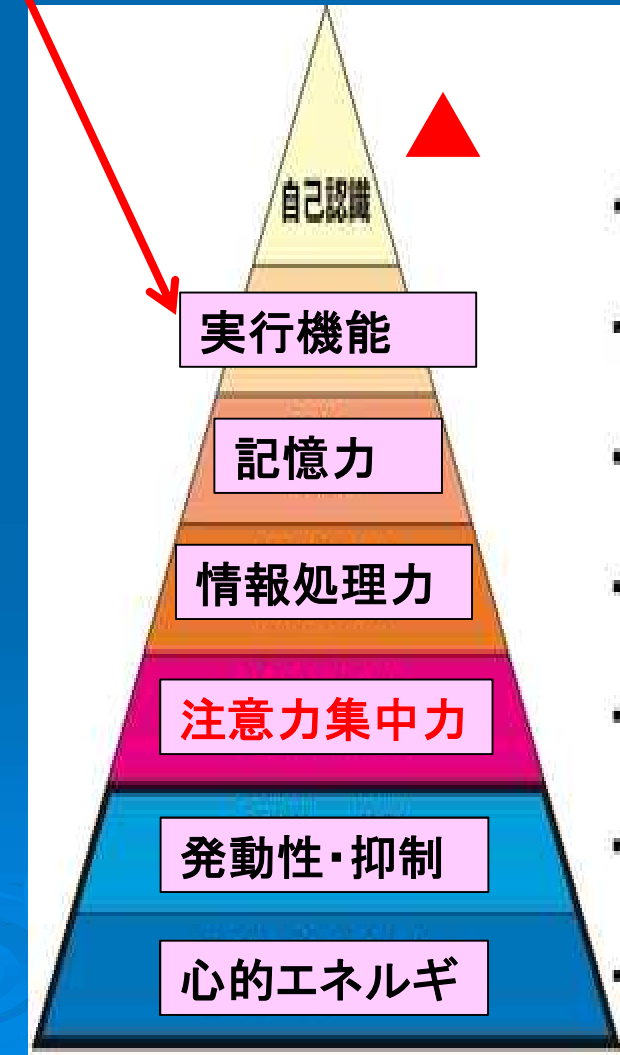
目的ある複雑な行為を段取りよく一人でこなせる能力

- 前頭葉の前頭前野+他神経領域とのネットワークが関係
- 高次な機能であるが故に障害されやすい
- 障害されると生活障害が生じる

	目標設定	計画立案	計画実行	行動修正
料理	夕食はカレーにする	食材をそろえる	順序良く調理	仕上がり時間変更
トイレ	トイレに行きたい	食事の10分前に行く	その時間人を呼ぶ	次回は15分前に

<実行機能に必要な能力>

- 状況認識能力（見当識）
- 同時に複数作業ができる（注意機能）
- ルール変更への対応力
- ▲自己認識＝自己見当識＝病識あり



2)症状解説-9

実行機能障害について

<概念>

- 今まで難なくできていた作業が一人ではできない状態

<具体例>

- 生活：リモコン操作できない
- 料理：手順多い料理は無理、鍋料理ばかり
- 掃除：掃除機の使い方がわからなくなる
- 運転：アクセルの踏み間違えで事故る
- 交際：約束すっぽかしが増える
- 管理：預金管理や内服管理できない
- 支払：高額紙幣の多用、ATMが操作できない
- 仕事：仕事上の失敗が増える

※本人の口癖：忙しい（忙しくないのに）

<結果として>

- 何から始めていいかわからない
- 行動後の自己評価ができない
- 予想外、新しい環境に適應できない
- 日常生活が障害される（生活障害に直結）



日常生活動作 (ADL)			
手段的日常生活動作 (IADL)		基本的日常生活動作 (BADL) (排泄、食事、着替え、見繕い、歩行、入浴) →障害あると一人暮らし不可	
家庭外 IADL (買物、交通機関利用し移動)	家庭内 IADL (掃除、洗濯、食事支度、電話の使用、金銭及び服薬管理)	中期: BADLの部分的障害	後期: BADLの全般的障害
初期: IADLの障害			

手段的日常生活動作 (IADL) 尺度



男性5点、女性8点：点数が高いほど自立していることを表す。

(出典：Lawton, M.P et al. Gerontologist. 1969; 9:168-179より)

【DASC-21】

- 認知機能と生活機能を総合的に評価するアセスメントシート
- 手段的ADL (IADL) 項目が充実し生活障害を検出しやすい

認知症アセスメントシートDasc-21

①物を置いた場所がわからなくなる	⑪バスを使って一人で外出できない
②5分前に聞いた話を思い出せない	⑫貯金出入れ公共料金支払できない
③自分の生年月日がわからない	⑬電話をかけられない
④今日が何月何日かわからない	⑭自分で食事準備ができない
⑤自分のいる場所がどこかわからない	⑮自分で内服薬の管理ができない
⑥道に迷って家に帰れない	⑯入浴が一人でできない
⑦水道の故障に適切に対応できない	⑰着替えが一人でできない
⑧一日の計画を自分で立てられない	⑱トイレが一人でできない
⑨季節や状況にあった服が着られない	⑲身だしなみが一人で整えられない
⑩一人で買い物ができない	⑳食事が一人でできない
	㉑家の中の移動が一人でできない

①～③：記憶 ④～⑥：見当識 ⑦～⑨：問題解決能力

⑩～⑫：家庭外IADL ⑬～⑮：家庭内IADL ⑯～㉑：身体的ADL

●感じない（1点）、少し感じる（2点）、感じる（3点）、とても感じる（4点）を観察者が記入

●合計点が31点以上で認知症の可能性ありと判定

2)症状解説-11

失行と失語

【失行】 運動障害や感覚障害がないのに
簡単な動作ができない

＜着衣失行＞



服の着方が
わからない

右頭頂葉の障害

【着衣失行】
●服の着方が
わからない

【構成失行】
立方体が上手
く模写できない

左頭頂葉の障害

【観念失行】
●道具が使えない

【観念運動失行】
●口頭指示動作
ができない

＜観念運動失行＞

無意識に使える
箸が意識すると
使えない

【失語】 言葉の扱いが困難になること

健忘失語	単語や言葉が出ない	アルツハイマー型
語義失語	言葉の意味がわからない	前頭側頭型

2)症状解説-12

失 認

視覚や聴覚など一つの感覚を通して物を正しく認識
できない状態（大脳皮質、特に頭頂葉の障害による）

●視空間失認（空間における位置関係がわからない）

→構成失行、着衣失行

●視覚失認（見えている物が 「何か」 わからない）

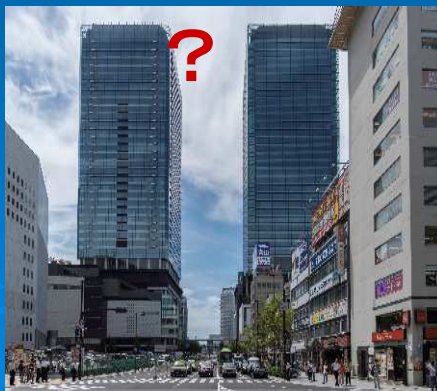
●街並失認（見慣れた街並が 「どこ」かわからない）

●道順失認（方向感覚なく、 帰り道がわからない）

●相貌失認（親しい人の顔が、 誰の顔かがわからない）



着衣失行



街並失認



道順失認



【失語】



【失行】



【失認】

- 失語
物の名前が出てこない
(語義失語)
- 失行(観念失行)
ペットボトル(道具)の
使い方がわからない
- 失認(視覚失認)
見えているものが何か
わからない